

2013BRM309AJ 西東京 200 西伊豆しおかつお試走

●三島から土肥まで（約 50 キロ）

2月23日(土)、本番を2週間後に控えて、西伊豆しおかつおを試走しました。

午前8時10分、駅前のミニストップに集まった面々とスタート。駅前広場は愛車を引いてタクシー乗り場脇へ。ここでサドルにまたがって、いよいよ200キロの旅が始まります。



<スタート地点—ここを直進>



<一方通行の県道>

コースの最初は県道とは名ばかり、狭い生活道路です。しばらく続く一方通行区間は、歩行者やわき道から飛び出して来る通学自転車に注意しながら、進みます。道幅が広がり、対面通行区間になると、朝の通勤車両(?)がけっこう走っていますが、この先、徳倉橋(@4.5K)までの辛抱です。

橋を渡ってすぐ左折、さらに左手の狩野川サイクリングロード(CR)に入ります。寒い朝ですが、犬の散歩、ジョギング、サイクリング、ちらほら人影を見かけます。見通しはいいですが、追い越し、すれ違いは十分に気をつけて、ひと声かけて。気持ちよく Share the road!

河川敷ののどかな風景に気を取られて車止めにぶつからないように進みます。この先、橋のもと2か所で車道を渡りますが、けっこう交通量が多いので、かならず一旦停止しましょう。

赤い橋の手前で県道に合流(@9.6K)、菖蒲橋(@12.9K)を左折するまでは江間IC、沼津方面に抜けるクルマがやや多いので注意が必要です。



<狩野川サイクリングロード(CR)>



<県道合流@9.6K>

その後、道なりに県道129号線を進みます。途中、神島橋(@16.4K)だけは正面のCRを直進しますが、すぐに迂回してきた県道と再合流します。

山裾と狩野川の間を巻いたあと、視界が開けると熊坂橋(@18.7K)を左折します。信号も道路標示もありませんが、右手ガードレールに取り付けられた、雨量による通行止め表示板が目印です。



＜熊坂橋－左折目印の看板＞

このあと、一旦、R136に合流します。「横瀬」S (@21.5K) 周辺は大型車が多く、工事中の修善寺橋は車線が狭いので、くれぐれも慎重に進みましょう。300m先の修善寺駅（トイレあり）に立寄り、お昼のお楽しみに『武士（たけし）のあじ寿司』をゲットして、国道からすると狩野川対岸の県道を遡ります。道はだんだん上り基調になってきますが、峠道の始まりと思えば気が楽でしょう。折り紙細工のような狩野ドームの銀屋根が見えたら、27.7K地点の橋を渡って国道に復帰します (@27.7K)。



＜修善寺駅－あじ寿司をゲット＞



＜狩野ドームの銀屋根＞



＜この橋を右折＞

「出口」S (@28.5K) を2段階右折すると、いよいよ船原峠に取り掛かります。交通量は少しありますが、道幅が十分あるので怖い思いはないでしょう。当日は上り終点の路側駐車帯で通過チェックを実施しますので、かならず止まって点呼を受けてください。また、この先のトンネル、10キロ近い下りに備えて、ウィンドブレーカを着込み、前後ライト点灯して再スタート。上りに比べて、迫った斜面に張り付いた下り道は急こう配や1.5車線区間が散見され、センターに膨らまないように気を使います。



＜路側駐車帯－通過チェック、かならず停車＞

「土肥中原」S (@47.9K) を左折してしばらく行くと、右手にセブンイレブンがあります。このすぐ裏手が土肥湾を望む岸壁となっていて、眺望◎。修善寺からいっしょに山越えてきた鮭寿司をコンビニ味噌汁とともにいただきます。肉厚の地物アジを軽く酢でめたものがたっぷり載った折箱に、名産の本わさび、職人芸の光る針生姜が添えられ、食欲をそそられます。さらに醤油まで特製という、こだわりの逸品です。



<武士のあじ寿司>



<富士見からの風景>

●土肥から下賀茂 PC1 まで (約 45 キロ)

海岸線に出てからは松崎までトンネルが多いので、もし、尾灯をいったん消灯していたら、ここで点けておくのがベター。国道とはいえ、海岸線を南下すると下田までずいぶん時間がかかるので、クルマはさほど多くありません。天気良ければ、松崎の先、その名も富士見というあたりから右手やや後ろに富士山が見えてきます。海に突き出たふたつの岬を乗り越えれば、いよいよしおかつおの里、松崎です。食べる時間がないようなら、先ほどのコンビニなどで売られている『しおかつおふりかけ』が、軽量コンパクトでお土産好適品(笑)です。松崎の街がほぼ尽きるあたり、「道部(みちぶ)」S (@72.8K) を直進して、蛇石(じゃいし) 峠に向かいます。途中、小さな郵便局前に架かっている橋から右手の山裾に続く道が復路のルートです。

川沿いの道は明るい照葉樹林の森の中に入り、何度かつづら折れを繰り返しながら標高をあげていきます。峠直下の落石を片づけるという口実でひと息入れて、石積み切通しの峠に到着 (@82.0K)。ここから PC1 までは下りのちフラット、心がはやるのですが、クルマ、落石はもちろん、6 キロほど先にダート工事区間があったり、要注意ですね。PC1 のサークル K には P 裏から入ります。



<蛇石峠を越える>



<しおかつお製品いろいろ>



<PC1 入口付近-左手前がケーキ屋>

●下賀茂から土肥へ（約 50 キロ）

PC1 すぐ手前左側、クリーム色の壁のケーキ屋さんのメロンロールは、地元産温室メロンをふんだんに使っています。なんでも、ここ下賀茂が日本の温室メロン栽培発祥の地だとか。いまでは栽培農家も一軒だけになってしまったそうで、幻になってしまう前に香り高いケーキをどうぞ。

スイーツ、給水を済ませたら、いよいよ復路です。正直、ここからがつかったです。もう、いっぱいという人はここから下田へエスケープ、**輸行をおすすめ。輸行バッグは必須アイテムです。**

疲れた体に追い打ちをかけるように続く上りは、概して往路より急こう配（特に妻良（めら）～松崎、戸田（へた）～井田 TN）ですから、自転車が進まないのは仕方がないと思ったほうがいいです。日も傾いてだんだん気温も下がってきますから、防寒、こまめな補給をこころがけて進むといいでしょう。



<下賀茂のメロンロール@400 円>

<西伊豆の絶景—松崎以南は風の名所>

こうして、アップダウンやトンネルが続く道のりですが、後天に恵まれれば、青い海、白く砕ける波がしらを見下ろしながら駆け抜けるシーサイド・ライドは、自転車乗りにとって至福の時となるでしょう。

さて、PC1 を出たあと、道は国道をショートカットする形でまっすぐ妻良に向かいます。途中、ひとやま越えて港に出るやいなや、再び斜面に取り付きます。山なみがそのまま海に溺れたような地形は絶景に恵まれ、クルマの少ないこの区間は本コースのハイライトです。

波勝崎（はがちざき）への道を分け、坂を上りつめると、道は松崎町との境に差し掛かります。右手に標識、左手に立て看板があるので見過ごすことはないでしょう。ここから坂をだらっと下ったところに、右手頭上に【石部の棚田】と書いた案内板が見えてきます。上り坂なので、いやだなと思いがちですが、こちらがコースですのでよろしく。（笑）ちなみに、上りは 1 キロ足らずの見晴らし台で上りが終わると、簡易舗装の道を下ります。基本的に林道、農道と思ってください。舗装が大きく荒れているところもあり、カーブにはガードレールもありません。それでも、棚田、みかん畑、樹林と変わる風景は日本の里山そのもので、心を癒してくれます。ここは安全第一で。先ほどの橋、郵便局前に飛び出したら左折、あとは土肥まで往路を逆にたどります。



<ピーク@113.4K—松崎町に入る>

<【石部の棚田】方面へ右折>

●土肥から PC2 沼津内浦へ（約 42 キロ）

土肥で 145 キロ走破、通常の BRM200 なら、完走が見えてきて、ゴールに帰りつく楽しみが膨らむところですが、このコースはここからが正念場です。土肥から戸田へ、戸田から大瀬崎へ、それぞれが完全な二段坂になっており、坂は 4 本、しかも後に行くほど勾配がきつくなるからです。

とはいえ、ここまで来たら前に進むしかない、えんやらとととと走ります。途中、駿河湾の夕日、落日がとてもきれいなのですが、上りは止まりたくない、下りは止まれないということで、写真を取る余裕がありません。心のフィルムに感光することになりました。

戸田あたりで完全に日没を迎え、街灯など一本もない道を進みます。試走当日は月夜でしたが、本番は新月、いずれにしても森の中では、あたりは漆黒の闇です。ここはライトの明かりが命です。タウンライドの“自己主張用ライト、ときどき点滅したりして”ではなんの役にも立ちません。光量、照射角ともにシリアスに路面を照らすものが必須です。ハブダイナモ、あるいは、バッテリーライトなら大型を 2 本用意すべきでしょう。こうした備えが厳しいライドの成否を握るとベテラン・ライダーから聞いたことを思い出しました。

井田 TN から大瀬崎を経て内浦までの道のりは下りで身体が冷えた（気温が下がってジャージにウィンドブレーカでは防寒できませんでした）のと、ハンガーノック気味なので、つらい道なりになりました。眼球が冷え切った感じの涙眼に体温がだんだん下がっていくような感じとでもいうのでしょうか。PC2 に辿りついたのは制限時間 1 分前でした。



<日が傾くなか、帰路を急ぐ>



<井田トンネルー上り終了！>

●PC2 沼津内浦からゴール三島二日町へ（約 13 キロ）

ここまで来れば、完走が見えてきますが、温かい補給食で暖を摂り、増えてきた交通量に安全に気をつけながら車輪を進めます。ここから、怖いのは時間ではなく、事故、ミスコースなどのトラブルです。信号で止まるごとに二つぐらい先までの道順を確認して、心の中で復唱します。その甲斐あってか、クローズ 1 分前にゴール。長い 13 時間 29 分の旅が終わりました。再度、温かい飲み物で気力を養ったのちゆっくり駅に向かいました。



<ゴールー東横イン三島駅前、1 階会議室>